



Library Liébana

2022年11月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトウス写本】

黙示録にでてくる天使がラッパを吹くと災いがかかる場面がありますが、ラッパ以外にもいろいろな楽器が描かれています。今月は、写本に描かれている楽器を主体に見てみたいと思います。



(10世紀マドリド写本から)



(13世紀ファンドス写本から)



(12世紀コルシーニ写本から)



(12世紀シロス写本から)



【中世の写本：クロイスター黙示録写本】

1330年にフランスノルマンディーで作られた写本



ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

11月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
毎週日曜日 10:30~17:30
H.P.

11月						
日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。



4日(金), 6日(日), 24日(木)は
午後からです。

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月のベアトウス写本の挿絵 【ラッパを代表とする楽器】

天使が吹くと災いが起こるラッパをはじめとして、写本には当時使われていたと思われる楽器がいくつも描かれています。

ベアトウスに描かれているラッパは角笛のような或いは豆腐屋ラッパのような形をしています。



他に竖琴とか、写本によっては太鼓やシンバルのような楽器も描かれています。

【マドリッド写本】

10世紀半ばころ(930-950頃)又は920-930頃にレオン州で制作されたと推定。

写字生の名前は不明。挿絵が切り取られた跡が多く、脱落も見られ141葉の羊皮紙に27点の挿絵と2点のAnti-ChristのTableが残されている。(当初は60点以上の挿絵が描かれていたと推測)

挿絵はフレームのない状態で描かれており、Beatus写本の初期の姿と思われる。また全ページ大の挿絵も残されたものにはありません。

彩色はモーガン写本同様に赤・青・黄だけでなく、薄緑色や薄オレンジ色などいろいろな色が使われています。

【ファクンドウス写本】

13世紀に制作されたラス ウェルガス写本を除くと、修道院ではなく王室の依頼で制作された唯一のベアトウス写本です。

系統はモーガン写本と同じII a群です。

大きさは他の写本と比較しそれほど大きくはありませんが、全312葉と一番大部な写本になっています。

金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

今月中世彩色写本

【クロイスター黙示録】

13世紀から流行した英仏黙示録の後期にあたる1330年にフランスノルマンディーで作られた写本。(大多数は英国で制作)

この本には72の半ページ大または全ページ大の彩色挿絵が描かれています。そのほとんどは14世紀初頭のスタイルです。

38葉のうち2葉(4点)の挿絵が切り取られています。また、写本の最初の2葉にキリストの誕生物語が描かれているのが特徴です。

【シロス写本】

1109年完成。これまでより一段と精緻な図形化したモサラベ様式の挿絵が描かれています。

写本はほとんど完全な状態にあることから、あまり使用されていなかったと考えられます。

14世紀までシロス修道院にありましたが、サラマンカ大学に寄付された後盗難にあい大英博物館に売却されました。

【コルシーニ写本】

12世紀初頭にスペイン北東部のアラゴン地方で作られたと推測される。1723年にスペインのレオンのサアグーン修道院からコルシーニの枢機卿の手に渡り、その後コルシーニ国立アカデミー図書館が所蔵。

ベアトウス写本の中でも縦 17cm 横 9.5cmと一番小さな写本であるが、そのことによってベアトウス写本特有のユニークな魅力が深まっている。

挿絵は8点と残存するものが少ないが、絵は逆にモサラベ様式のもの7点で、ロマネスク様式は1点(155r)だけに見られます。

オリジナルはおそらく90ほどの挿絵が描かれていたと考えられるが、大半が生き残っていません。